
令和2（2020）年度 自己点検・評価書

兵庫大学・兵庫大学短期大学部

大学質保証委員会 委員長所見

この度、令和2（2020）年度事業計画について、「兵庫大学・兵庫大学短期大学部 内部質保証実施要領」に基づき、期末報告・最終評価を行った。

1. 自己点検・評価の意義

本学で行う自己点検・評価は、建学の精神、本学の目的及び各種方針等の実現に向けて、内部質保証を恒常的に機能させることを目的としている。この内部質保証とは、本学の諸活動を自己点検・評価したうえで、その結果を明らかにするだけでなく、結果を検証して改善に結びつけることにある。

令和2年度に本学の内部質保証方針及び実施体制を改定し、本年度は、これに基づき実施する初めての自己点検・評価であること、そして、「Vision 2024（第3次中期計画）」の1年目にあたる自己点検・評価でもある。このことから、内部質保証の方針や実施体制についても、課題が無いか等、確認を行いながら、進めてきた。

単年度の事業計画を評価する、というものではなく、この自己点検・評価が本学の短期及び中長期的な発展に大きく影響することを自覚し、自己点検・評価を行った。

2. 評価結果について

令和2年度は世界規模で新型コロナウイルス感染症が拡大し、高等教育機関においても、その対策を余儀なくされた。令和2年4月8日に緊急事態宣言が発令され、本学の活動は悉く制限されたといえる。当初計画していた事業計画の実施計画そのものが遂行できない状況に陥るだけでなく、遠隔授業の実施といった新たな対応をしなければならない事態となり、非常に厳しい状況の中で、事業計画を遂行したことに感謝の意を表したい。

I 建学の精神の浸透と実践

新型コロナウイルス感染症拡大により、計画どおりに実施ができない状況の中で、実施方法を変更し、当初の目的を達成するための工夫を行っていることを確認した。特に建学の精神は、どこが担当というものではなく、全学部全学科、各組織の全てが実現すべきものであることから、自身が属する組織においてどのようなことができるかを考えながら、他の組織と協働することでさらに発展的に建学の精神を考える機会となることを期待する。

II 建学の精神に基づく人材の育成

「I 建学の精神の浸透と実践」と同様、実施方法を工夫することで当初の目標を達成しようと努力していることを確認した。宗教行事だけでなく、教育課程等の大学での生活全体を通じて、建学の精神をどのように浸透するのかを更に深めていくことを望む。

また学生の希望に沿った質の高い出口保証は、概ね成果が出ている。目標値として、指標となる国家試験合格率などを設定しているが、本来は数値目標の達成が重要なのではなく、学生一人ひとりの夢を叶えることが最も重要である。新型コロナウイルス感染症の拡大により、多大な制限がある中で様々な工夫を試みており、「目の前の学生のために」を考えた熱意ある教育の成果が結果に表れている。

残念ながら一部、思うような成果とならなかった事業もあったが、何が課題であったかを既に検討済であることを確認している。今回の事業計画で明らかとなった課題は課題として精査、改善し、目の前の学生の夢を叶える教育を引き続き行っていくことを望む。

III 教育の質保証改革の推進

IR 推進室が設置されたことにより、教学マネジメントの確立をさらに加速するための組織化を行うことができた。また、オンライン授業の導入により、学修ポートフォリオやルーブリック評価のデータ蓄積が可能となったこと、「学びのカルテ」や「ディプロマ・サプリメント」の配付など、大きく前進している。

教学マネジメントの目的は、本学が養成したい人材（DP）を養成できているのか、その実現に必要な教育プログラム等が整備されているのかを本学が自律して確認、改善を行うことにある。「Vision 2024（第3次中期計画）」においても最も重要な目標であることから、教育改革推進会議において方向性を定め、この方針に基づいて各組織が連携し、全学レベルで教育改革を進めていく。

教育環境については、Is 値調査の完了、各建物の使用状況の確認、R22 冷媒ガス対応の空調機の現況調査が完了しており、「Vision 2024（第3次中期計画）」での計画どおり進んでいる。今後は、年度別整備計画を作成し、学生にとって安心・安全で学びやすい環境のための整備を引き続き行うことを望む。

IV 研究水準及び研究成果の向上

大学院の開設を契機として、「日本地域共生ヘルスケア学会（仮称）」の研修会の実施や、令和3年度の日本地域創生学会大会の計画など、研究活性化のための土壌ができつつある。また、地域より2件研究依頼があり、地域ニーズへの対応に繋がるものであると確認できた。新型コロナウイルス感染症拡大による制限があり、計画通りに研究推進ができない面もあったが、工夫を重ねながら進めていることを確認した。

高等教育機関にとって、研究活動は必須であり、本学の価値そのものへも直結することを改めて認識し、更なる研究活動の活性化に努めることを望む。

V 高大接続の強化

コロナ禍で活動が制限される中でも、附属校・園、連携協定校との連携を進めていることが確認できた。附属園では、本学の「知」を活用した連携を計画し、一部実施されている。また、連携協定校についてはSDGsや地域創生をテーマとした探究学習を再開し、高

校のニーズに合った対応を行っていることが確認できた。また、課題認識として、個々の学習の提供だけでなく、パッケージ化（プログラム化）することで、継続した学びの流れを構築することを次の計画として提示している。学習者主体の学びをどのように提供していくのかを考え、更なる連携強化を期待する。

VI ブランド力の強化

コロナ禍において、さまざまな策を講じたものの、1) 受験人口の減少、2) 大手私立大学の定員厳格化による合格者絞り込みの終息、合格者の増加、3) 新型コロナウイルス感染症拡大による接触機会の喪失により、入学定員充足には至らなかった。特に、学生募集においては、「個」に対する丁寧な教育など本学らしさや良さを伝える機会が制限された。

教育の中身（本学の特色や教育手法、学修成果の可視化等）を明確に定め発信することで、本学の教育活動に共感する受験生を獲得し、「ありがとうのプロフェッショナル選抜」により APに見合った学生を受け入れるという好循環のためには、全ての事業計画が達成されることが重要である。

全ての項目の達成度合いがブランド力の強化へつながることを自覚し、教職員一丸となって目標達成に向け確実に事業を進めることを強く望む。

VII 地域社会との連携強化

リカレント教育プログラムの活動拠点として、加古川ヤマトヤシキにおいてサテライト講座を整備し、計画は概ね達成している。制度の在り方についての課題提起がなされ、リカレントコースの分野の拡大などの方向性や地域の生涯学習の拠点化に向けた取り組みについて示されていた。また連携協定先との連携においては、「地域連携に関する調査」を実施しており、調査結果に基づく地域連携への施策への反映を期待する。

VIII 経営・ガバナンスの強化

令和3年度より学生支援強化のための「障がい学生支援オフィス」、研究支援強化策としての「研究支援課」を設置した。本学の目指すべき方向の達成に向け、新しい部署が役割を果たすことができるよう、全学的な連携を図っていきたい。

また、内部質保証においては、本学の内部質保証体制の第一案となる運営方針等が策定され、要領に基づき実施された。加えて、認証評価受審に向けた準備も進められている。

寄付金事業においても、概ね計画通り進んでいる。

3. 総括

令和2（2020）年度の事業計画は、「Vision 2024（第3次中期計画）」の1年目にあたる。「Vision 2024（第3次中期計画）」では、特に「教育の中身」と「教学改革」を重点的に取り組むこととしており、これらの成果が、本学の中期計画の達成に大きな影響を与えることは言うまでもない。

「5年後の大学像」の実現のための最初の年として、全教職員が多くの制約がある中で、工夫を重ね成果を出していただいた。成功した計画であっても、それぞれに何かしらの課題は存在している。明らかになった課題について、そのままにすることなく改善方策を図り、令和3年度に繋げていただきたい。

令和3年5月12日

兵庫大学・兵庫大学短期大学部

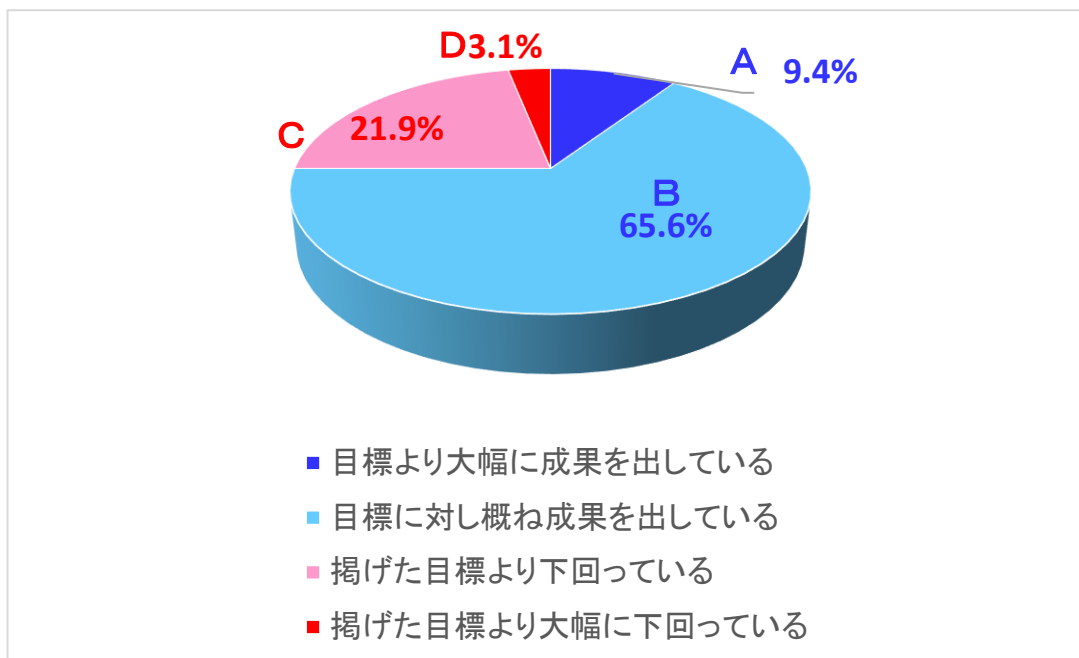
学長 河野 真

令和2(2020)年度事業計画評価結果

1. 評価結果

評価の基準	標語	評価結果	評価結果
目標より大幅に成果を出している	A	3	9.4%
目標に対し概ね成果を出している	B	21	65.6%
掲げた目標より下回っている	C	7	21.9%
掲げた目標より大幅に下回っている	D	1	3.1%

2. 評価結果の割合



令和2（2020）年度事業計画 期末評価について

戦略目標	I-1 建学の精神の理解	責任者	学長	関連部署等	学長室、FD・SDオフィス、教育学部、総務課
No	KPI	改善活動の要否	改善指示事項	改善指示事項	
①	建学の精神・タグラインの定義と共有	(B)	改善会議体 改善指示事項	改善指示事項	
	評価理由等				
(評価した点)	コロナ禍において活動が制限される中でも、定例礼拝を継続し、建学の精神の浸透のための方策を模索している。 また、100周年記念事業のタスクフォースの中で建学の精神を振り返り、再定義につながる成果がみられた。	-	各組織	-	
[留意事項]	-	-	改善指示事項	-	
(今後への期待)	学園創立100周年記念事業企画委員会の方向性を踏まえ、本学としての建学の精神の浸透方策を検討、実施すること。	-	改善指示事項	-	
No	KPI	改善活動の要否	改善指示事項	改善指示事項	
②	FD・SD研修の実施	(A)	改善会議体 改善指示事項	改善指示事項	
	評価理由等				
(評価した点)	新任教職員に対する建学の精神に関する理解度が100%であること。 オンライン授業のタスクフォースを側面から支援し、一人の教員も取り残すことなく、疑問等に応える研修会を開催したこと。開催時期、テーマの関心の高さもあって、研修会参加者を多く集めることができたこと。	-	各組織	-	
[留意事項]	本来の目的であり「建学の精神を理解し、全ての活動に活かすことを教職員1人ひとりが考えることができる基盤の構築」であることから、KGIに基づく研修の実施等を求める。	-	改善指示事項	-	
(今後への期待)	本来の事業目標は達成することができなかったが、建学の精神に基づく教育活動は、本学の教育の根柢に関わる内容であることから、3泊り及びびアセスメントを含め、教育活動全体を通した一体的な取り組みの方策について企画検討すること。 次年度は教育における実践的な研修とともに、建学の精神の理解をさらに深めるような活動を期待する。	-	改善指示事項	-	
No	KPI	改善活動の要否	改善指示事項	改善指示事項	
③	非常勤講師への周知	(B)	改善会議体 改善指示事項	改善指示事項	
	評価理由等				
(評価した点)	新型コロナウイルス感染症の状況のため、計画通り実施できない状況の中、周知方法を変更し対応していること。	-	各組織	-	
[留意事項]	-	-	改善指示事項	-	
(今後への期待)	3泊り及びびアセスメントを踏まえ、シラバス作成の際に本学の教育について非常勤講師を含めた教員全員が共通理解していることが必要である。この点を踏まえ、建学の精神を周知するだけでなく、教育にどのようにつながっていくかという観点について、関係部署等と協議を行い、必要な情報を共有する仕組みを構築することを期待する。	-	改善指示事項	-	
No	KPI	改善活動の要否	改善指示事項	改善指示事項	
④	新任教職員研修での説明	B	改善会議体 改善指示事項	改善指示事項	
	評価理由等				
(評価した点)	当初の計画内容に基づき実施し、調査結果も良好であった。	-	各組織	-	
[留意事項]	-	-	改善指示事項	-	
(今後への期待)	建学の精神を周知することが目的なのではなく、教職員一人ひとりがさまざまな活動に建学の精神をどのようにつながせていくかという観点から求められる。このことを踏まえ、新任教職員への浸透の在り方等について検討を行うことを期待する。「今後の展望」へも記載のとおり、さらに理解が深まるよう実践に向けた企画等の実施を期待する。	-	改善指示事項	-	

戦略目標	II-1	建学の精神の浸透と教育課程の再構築	責任者	副学長 (教育担当)	関連部署等	全学部全学科、宗教育推進委員会
No		KPI	改善活動の要否	改善指示事項		改善指示事項
①	全学生・全教職員の宗教関連行事への参加	学長評価 (B)	-	改善会議体 改善指示事項		
	(評価した点)	評価理由等		各組織		
	[留意事項]	コロナ禍において活動が制限される中でも、定例礼拝を継続し、看話集「思惟(しゆい)」を制作し、建学の精神の浸透のための方策を模索している。		改善指示事項		
	(今後への期待)	宗教行事を実施することが目的ではなく、宗教関連行事を通じて、建学の精神をどのようなように浸透させるのかを委員会において協議し、これを表現するための方策等を検討することを期待する。				
戦略目標	II-2	「ありがとうのプロフェッショナル」の育成 学生の希望に沿った質の高い出口保証	責任者	副学長 (教育担当)	関連部署等	全学部全学科 改善指示事項
No		KPI	改善活動の要否	改善指示事項		改善指示事項
B	公務員試験合格者 2人以上→1人合格	学長評価 C	-	改善会議体 改善指示事項		
	(評価した点)	現代ビジネス学科 評価理由等		各組織		
	[留意事項]	就職率100%、公務員1人合格(消防)、(1名非正規)、上場企業4人の成果であったこと。		改善指示事項		
	(今後への期待)	令和3年度より新たに導入する「学生面談システム」について、退学防止効果(退学率の改善有無)、改善点や課題等を精査し、教育改革に繋がるかどうかの検証を行うとともに、学科教員が一丸となって、学生指導に当たることがを期待する。				
No		KPI	改善活動の要否	改善指示事項		改善指示事項
N	管理栄養士国家試験合格者 90%以上→15人(60.0%) 栄養マネジメント学科	学長評価 C	要	改善会議体 改善指示事項		
	(評価した点)	評価理由等		各組織		
	[留意事項]	コロナ禍において活動が制限される中でも、丁寧な指導、対策等を行っていることが確認できた。(国家試験合格者60.0%) 当初の目標達成に向け、オンラインの活用など状況に合わせて工夫をしていること。		改善指示事項		栄養マネジメント学科
	(今後への期待)	令和2年度については、コロナ禍により指導方法等が大きな影響を受けた。令和3年度は学生のモチベーションを維持し、合格に向けた支援に更に取り組むことを期待する。 今後の展望に記載の課題①総合演習Ⅲの試験・成績評価の見直し、②4年次Ⅱ期の伸び悩み対策、③総合演習Ⅳ単位修得後の気の緩み対策への対応を期待する。				国家試験の合格者が全年度花びまぐ下回っている。(63.1・3%)。コロナによる活動自粛等の影響はあっても、全国的に同じ環境下での結果であることから、再度、国家試験対策の体制等について点検、改善を行い、NPIを達成すること。
No		KPI	改善活動の要否	改善指示事項		改善指示事項
H	教員採用試験合格者 3人以上→既卒者2人合格 (保健体育教諭2人、養護教諭1人) 運動関連資格試験合格者 100% (健康運動実践指導者100%、健康運動指導士100% ジュニアスポーツ指導者100%) 健康システム学科	学長評価 B	要	改善会議体 改善指示事項		
	(評価した点)	評価理由等		各組織		
	[留意事項]	教員採用試験に既卒者2人が合格しており、受験者数も増加傾向にある。また、既卒者にも配慮した支援対策を行い、結果に結びついている。		改善指示事項		教育学部、教職、学習支援センター、学修基盤センター、健康システム学科
	(今後への期待)	ベンチマークを選定し、戦略に基づく対策・支援を充実することを期待する。				採用試験合格者の向上に向けた大学全体としての採用試験への支援フロー(既卒者対応を含む)を構築し、各学科、部署等が連携し学生支援に当たる体制を構築すること。

No	KPI	改善活動の要否	改善指示事項	
K	看護師国家試験合格率 100%→84人 (90.3%) 保健師国家試験合格率 100%→12人 (100.0%)	要 B	改善会議体	
	看護学科		改善指示事項	
	評価理由等		看護学科 看護師国家試験の合格率が全国平均と比べて低い。再度、国家試験対策の体制等について点検、改善を行い、KPIを達成すること。	
	(評価した点)		各組織	
	[留意事項]		改善指示事項	
	「アウトカム評価」に記載のとおり、低学年生への早期からの学修機能強化が求められる。高学年と低学年双方への対策について検討を期待する。			
S	KPI	改善活動の要否	改善指示事項	
	社会福祉士国家試験合格率70%→10人 (83.3%) 精神保健福祉士国家試験合格率75%→5人 (100%) 認定資格 取得率100%			看護学科
	評価理由等			社会福祉学科 入学部、学長室と連携し国家試験に対する取り組みやその成果等を積極的に発信すること。
	(評価した点)			各組織
	[留意事項]			改善指示事項
	教員の細やかな指導、学生の意欲的な学習などにより、目標値を大幅に上回る結果であった。 本学の高い合格率は定着しつつある。安定的に合格率を維持できるような体制を構築することを期待する。 国家試験対策、模試の試験監督、問題作成、個人カルテ、個別指導等の国家試験の業務負担については、全学科共通の課題であると認識している。大学全体での対応については教務部を主幹部署として検討を行いたい。			
Y	KPI	改善活動の要否	改善指示事項	
	公務員 (公立園) 合格率10%→11.5% こども福祉学科			改善会議体
	評価理由等			改善指示事項
	(評価した点)			各組織
	[留意事項]			改善指示事項
	他部署等との連携を図り、目標としていた合格率を上回る結果であった。 学科と教職・学習支援センターによる連携が採用試験の結果に繋がっている。 安定的に合格率を維持できるよう更なる充実と支援体制の構築を期待する。			
C	KPI	改善活動の要否	改善指示事項	
	公務員 (公立園) 合格率10名以上→9名 保育科第一部・第三部			改善会議体
	評価理由等			改善指示事項
	(評価した点)			各組織
	[留意事項]			改善指示事項
	コロナ禍において活動が制限される中でも、丁寧な指導、対策等を行い、過去最高の9人の合格を得た。 学科と教職・学習支援センターによる連携が採用試験の結果に繋がっている。 安定的に合格率を維持できるような体制を構築することを期待する。新しく導入する「サンキューサブリ」を最大限活用し、更なる支援体制の強化を期待する。			

戦略目標	III-1 学修マネジメントの確立	副学長 (教育担当)	関連部署等	FD・SDオファイス、IR推進室、全学部全学科、教育学部
No	KPI	責任者	改善指示事項	改善指示事項
①	<p>兵大Basics ABC及びプロフェッショナル力の実施と評価法の検討</p> <p>学長評価 B</p> <p>改善活動の要否 要</p> <p>評価理由等</p> <p>(評価した点) 学修マネジメントの確立に重要な「兵大BasicsABC」、「兵大プロフェッショナル力」の構築が進んでいることを確認できた。また、教育学部、IR推進室が協働し、学びのカルテ、ディプロマサブメントの配付などが進んでいる。</p> <p>〔留意事項〕 「今後の展望」に記載の教育内容の質や目標が未検討であることは、学修マネジメントの信頼性の観点からも看過できない。関連学部学科、部署等と連携し設計すること。</p> <p>(今後への期待) 学生自身が自分の学修成果について振り返ることができるよう、学びの成果の可視化を進め、学生による活用が浸透することを期待する。</p>	副学長 (教育担当)	<p>教育改革推進会議</p> <p>兵大Basics ABC及びプロフェッショナル力の関係を明らかにし、これに基づく評価指標、評価基準の設定、アセスメントの確立に向け制度を設計し、関連部署等と共に早急に学修マネジメントを実現すること。</p> <p>各組織</p> <p>改善指示事項</p>	FD・SDオファイス、IR推進室、全学部全学科、教育学部
②	<p>学修ポートフォリオ、ルーブリックの導入・実施</p> <p>学長評価 (B)</p> <p>改善活動の要否 -</p> <p>評価理由等</p> <p>(評価した点) オンライン授業の導入に伴い学修ポートフォリオ、ルーブリック評価のデータ蓄積が可能となったこと。また、コロナ禍の下でのオンライン授業については、当初予定にはなかったにもかかわらず、速やかに形態構築がなされ、滞りなく授業が実施できたこと。また、各学科の国試対策などで活用が始まり、学びのカルテ等の学生配布も実施できたこと。</p> <p>〔留意事項〕 ポートフォリオやルーブリックの活用に関する本学の方針等を策定し、学修マネジメントの中に組み込むこと。</p> <p>(今後への期待) 4月時の計画において、「学科主要科目での導入・実施が充分でない」との課題意識があったが、これについては、どのような改善活動を行ったか、また、期末時の進捗状況などについて、確認が必要である。</p>	副学長 (教育担当)	<p>改善会議体</p> <p>改善指示事項</p> <p>各組織</p> <p>改善指示事項</p>	改善指示事項
③	<p>カリキュラムマップ・カリキュラムツリーの見直しと活用法の検討</p> <p>学長評価 B</p> <p>改善活動の要否 要</p> <p>評価理由等</p> <p>(評価した点) 副学長(教育担当)が中心となり、学科長会議の協力の下、各学科のカリキュラムの見直し(点検)を行っていること。</p> <p>〔留意事項〕 本学のDPOの達成のために必要なCPであるかの確認を行い、これに基づくカリキュラムが整備されていることを確認、点検することを期待する。</p> <p>(今後への期待)</p>	副学長 (教育担当)	<p>改善会議体</p> <p>改善指示事項</p> <p>各組織</p> <p>改善指示事項</p>	<p>学科長会議</p> <p>「アウトカム評価」に記載の課題(資格・免許に関し、大学としての必要性や方向性を検討する必要がある)について、現状と改善方策について学科長会議で協議し、教育改革推進会議に上程すること。</p>
④	<p>IR推進室の体制構築と質の向上</p> <p>学長評価 A</p> <p>改善活動の要否 -</p> <p>評価理由等</p> <p>(評価した点) 部署設置1年が経過し、その中で学生情報を統合し、データ提供ができる体制まで構築されたこと、加えて、他部署等と連携し、「学びのカルテ」や「ディプロマサブメント」などの学生配付が実現した。</p> <p>〔留意事項〕 学生情報が統合一元化されIRに基づく本学の学修改革を進めるため、Hu systemの全学的な活用を期待する。</p> <p>(今後への期待)</p>	副学長 (教育担当)	<p>改善会議体</p> <p>改善指示事項</p> <p>各組織</p> <p>改善指示事項</p>	改善指示事項

戦略目標	III-3 教育・学生支援環境の整備・充実	責任者	学長	関連部署等	事務部
No	KPI	改善活動の要否	改善指示事項		
⑤	施設・設備の総点検と年度別整備計画の完成	要	改善会議体 改善指示事項		改善指示事項
	(評価した点)		各組織	事務部	
	[留意事項]		改善指示事項	キャンパス全体の建物、設備等について耐震状態を含め点検結果の報告を行うこと。	
	(今後への期待)				

戦略目標	IV-1 研究生産性の向上	責任者	副学長 (研究・社会連携担当)	関連部署等	全学部全学科、学長室
No	KPI	改善活動の要否	改善指示事項		改善指示事項
①	研究会の開催		改善会議体 改善指示事項		改善指示事項
	(評価した点)		各組織		
	[留意事項]		改善指示事項		
	(今後への期待)				

戦略目標	IV-2 地域ニーズ対応型研究の推進	責任者	副学長 (研究・社会連携担当)	関連部署等	全学部全学科、学長室
No	KPI	改善活動の要否	改善指示事項		改善指示事項
②	共同研究・委託研究のニーズに基づくマッチング		改善会議体 改善指示事項	研究推進会議	
	(評価した点)		各組織	共同研究等を確保するための組織的対応について検討すること。	
	[留意事項]		改善指示事項	附属総合科学研究所	
	(今後への期待)			マッチング及び地域ニーズに対応した研究活動の推進のため、附属総合科学研究所の運営体制等を検討、構築すること。	

戦略目標	IV-3 「知」の集積拠点としての研究基盤の形成	責任者	副学長 (研究・社会連携担当)	関連部署等	看護学研究科、学長室
No	KPI	改善活動の要否	改善指示事項		改善指示事項
③	研究学会の設立と学術集会の開催		改善会議体 改善指示事項		改善指示事項
	(評価した点)		各組織		
	[留意事項]		改善指示事項		
	(今後への期待)				

戦略目標	V-1 附属校・園との連携強化	責任者	学長	関連部署等	全学部、教育学部、入学部
No	KPI	学長評価	改善活動の要否	改善指示事項	改善指示事項
①	継続教育強化のための附属校・園との教員合同FDの企画	B	要	改善会議体 改善指示事項	
	評価理由等				
(評価した点)	コロナ禍において活動が制限される中でも、附属園との連携事業が進みつつある。			各組織	附属校化に関するプロジェクト委員会
[留意事項]	—			改善指示事項	附属校における探求学習の開始支援を行うとともに、附属校としての強みを活かすよう、教育改革に対する強力な働きかけを行うことを求める。
(今後への期待)	附属園との連携について、STEAM、食育のタスクフォースについても事業展開を期待する。				

戦略目標	V-2 高等学校との連携強化	責任者	副学長 (教育担当)	関連部署等	全学部、入学部
No	KPI	学長評価	改善活動の要否	改善指示事項	改善指示事項
②	連携協定校への探求学習の提供	(B)	要	改善会議体 改善指示事項	
	評価理由等				
(評価した点)	連携に基づく事業件数は、コロナ禍の下充分ではなかったが、活動が制限される中でも、探求学習指導を継続している。また、パッケージ化についても準備を進めている。			各組織	全学部全学科
[留意事項]	—			改善指示事項	入学後に探求学習を活かした学びを継続する仕組みを検討すること。
(今後への期待)	探求学習での連携を通じ、高校側が求めるものを把握し、的確に対応することができている仕組みの構築を期待する。				

戦略目標	VI-1 収容定員の充足	責任者	副学長 (教育担当)	関連部署等	全学部、入学部
No	KPI	学長評価	改善活動の要否	改善指示事項	改善指示事項
①	入学定員の確保 入学定員の1.1倍以上 (定員580人)	C	要	改善会議体 改善指示事項	教育改革推進会議、研究推進会議、地域連携推進会議
	評価理由等				大学全教及び各学部学科の募集広報活動の目標等について、「Vision 2024 (第3次中期計画)」を確認し、その具 体策を大学運営会議及び改善会議で策定し、実効化に向けて、その内容を各学科、部署等へ共有、推進するこ と。
(評価した点)	—			各組織	—
[留意事項]	—			改善指示事項	—
(今後への期待)	様々な策を講じたものの、入学定員の確保には至らなかった。安定的に学生を確保できるよう、更なる募集活動の充実を期待する。				
No	KPI	学長評価	改善活動の要否	改善指示事項	改善指示事項
②	外国人留学生の積極的受入れ	(C)	要	改善会議体 改善指示事項	
	評価理由等				
(評価した点)	現代ビジネス学科の目標値15人に対し、10人と目標には至っていないが、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の中、外国人留学生獲得に向けた新たな取り組みを行っていること。			各組織	現代ビジネス学科、入学部
[留意事項]	—			改善指示事項	学科として目標値に対し、どのようなアプローチを行ったか、また次年度に向けた目標値や活動計画等の報告を求 める。
(今後への期待)	外国人留学生の受け入れは、本学のグローバル化進展にも好影響が期待できることから、安定的に入 学生を確保することを期待する。				

戦略目標	VI-2	USR (大学の社会的責任) 活動による信頼の確保	責任者	副学長 (教育担当)	関連部署等	事務部
No		KPI				改善指示事項
③		教育情報の公表ページの充実	要否	学長評価 C	改善会議体 改善指示事項	
		評価理由等	要			
		(評価した点)			各組織	事務部
		[留意事項]				教育職員免許法施行規則(平成29年11月一部改正)第二十二条の六に基づく教職情報の公表について、早急に対応すること。
		(今後への期待)			改善指示事項	

戦略目標	VI-4	ネットワークホルダーとの信頼関係の醸成	責任者	学長	関連部署等	事務部
No		KPI				改善指示事項
④		同窓会支援体制の充実・強化	要否	学長評価 D	改善会議体 改善指示事項	
		評価理由等	要			
		(評価した点)			各組織	事務部
		[留意事項]				同窓会は本学の重要なステークホルダーであることから、関係強化に向け支援策等を検討し、実施すること。また、学園創立100周年を契機として、学園・同窓会双方の発展に資する関係の在り方等を検討すること。
		(今後への期待)			改善指示事項	

戦略目標	VII-1	社会的ニーズに対応したリカレント教育の提供	責任者	副学長 (研究・社会連携担当)	関連部署等	エクステンション・カレッジ
No		KPI				改善指示事項
①		履修証明プログラムの導入、リカレント教育プログラムの導入	要否	学長評価 (B)	改善会議体 改善指示事項	
		評価理由等	要			
		(評価した点)			各組織	業務推進会議 「今後の展望」では、社会的ニーズに対応したリカレント教育を展開するに当たり、科目等履修生年度や時間割の編成等現行制度を見直し必要が指摘されている。大学全体の方針を決定し、これに基づき指示を関係部署等へ行うこと。
		[留意事項]				エクステンション・カレッジ
		(今後への期待)			改善指示事項	リカレント教育を充実・拡張させる観点から、オンラインの利活用方策について調査・研究・報告すること。

戦略目標	VII-2	連携協定先とのさらなる連携強化	責任者	副学長 (研究・社会連携担当)	関連部署等	社会連携オフィス
No		KPI				改善指示事項
②		連携協定先への満足度調査の実施	要否	学長評価 B	改善会議体 改善指示事項	
		評価理由等	要			
		(評価した点)			各組織	地域連携推進会議 本学の地域貢献の考え方、連携協定先との強化方針を早急に定め推進すること。
		[留意事項]				社会連携オフィス 満足度調査の結果について、集計及び分析を行い、結果を報告すること。
		(今後への期待)			改善指示事項	

戦略目標	VII-3 地域との連携による教育・研究支援	責任者	副学長 (研究・社会連携担当)	関連部署等	社会連携オフィス
No	KPI	改善活動の要否	学長評価	改善指示事項	改善指示事項
③	地域での活動の拡大 (PBL型授業推進、ボランティア活動の参加等)	要	(B)	改善会議体 改善指示事項	
	評価理由等				
(評価した点)	コロナ禍において大きく地域での活動が制限される中で、感染対策を行いながら、複数の正課内外の活動が実施されPBL/ランブリアを開催するなど、成果をあげている。			社会連携オフィス	
[留意事項]	ボランティアに関する活動についてもその実績を確認すること。				
(今後への期待)	—				中間報告時にあったPBL授業についての満足度の点数化について、集計及び分析を行い結果を報告すること。

戦略目標	VII-1 機動的な意思決定を可能とする組織体制の確立	責任者	学長	関連部署等	事務部
No	KPI	改善活動の要否	学長評価	改善指示事項	改善指示事項
①	事務組織の改革・整備	要	(C)	改善会議体 改善指示事項	業務推進会議 業務の棚卸しや、各部署の目的に沿った事務分掌の整理など、大学の方針を提示し、それに基づく改善指示を各部署等へ行うこと。
	評価理由等				
(評価した点)	新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、柔軟な組織的対応及び勤務体制の見直しを図られた。事務組織の整備・改革については、成案には至っていないものの、業務改善のための提案を意識的に行っている。			事務部	
[留意事項]	DXの推進、将来を見据えた新しい社会的ニーズに対応する組織体制づくりが遅れている。				
(今後への期待)	—				教学情報、管理運営、財務情報等のDX推進を加速化させるとともに、新たなニーズ対応及び生産性向上に向けた検討を行い結果を報告すること。

戦略目標	VII-2 内部質保証の確立	責任者	学長	関連部署等	学長室
No	KPI	改善活動の要否	学長評価	改善指示事項	改善指示事項
②	内部質保証の方針の制定及び体制の制度化	要	B	改善会議体 改善指示事項	業務推進会議 各種委員会が多く委員会の趣旨・目的を再確認する必要がある。内部質保証の観点から委員会の整理統合、委員会の目的の明確化、規程の精査等を行い、カバナンズ体制の再確認を行うこと。
	評価理由等				
(評価した点)	(1) 質保証方針の策定、(2) 本学の内部質保証体制の構築、(3) 認証評価に向けた準備が大幅に進んだ。			各組織	
[留意事項]	—				
(今後への期待)	内部質保証、認証評価に向けた準備を速滞なく行うことを求める。			改善指示事項	

戦略目標	VII-3 財政基盤の強化	責任者	学長	関連部署等	事務部、学長室
No	KPI	改善活動の要否	学長評価	改善指示事項	改善指示事項
③	多様な収入源の確保の検討	要	B	改善会議体 改善指示事項	
	評価理由等				
(評価した点)	—			各組織	
[留意事項]	—				
(今後への期待)	学園創立100周年記念事業と合わせ、寄付金事業について更なる充実を期待する。				

() はコロナ禍で、当初計画や活動内容の大幅な変更を余儀なくされたため、変更後の目標、実施方法に対する評価を行った。



発行日：令和3（2021）年5月

発行：兵庫大学・兵庫大学短期大学部 大学質保証委員会